

モデル処理システムの比較評価

		現行踏襲案		リサイクル推進案		現有施設積極活用案
		ケース1	ケース2 (埋立処分委託)	ケース3	ケース4 (埋立処分委託)	ケース5 (埋立処分委託)
概要		現行の処理システムの施設構成を踏襲する案。最終処分場整備の有無によりケース分け。		現行の処理システムに対して、リサイクルを推進するため生ごみメタンガス化施設を整備する案。最終処分場整備の有無によりケース分け。		最終処分場を含めて現有施設をできるだけ延命化し積極的に活用する案。
現有施設延命化方針	第一工場	方針：基幹改良 (R6~8) 延命化目標：R23	方針：基幹改良 (R6~8) 延命化目標：R18	方針：基幹改良 (R6~8) 延命化目標：R23	方針：基幹改良 (R6~8) 延命化目標：R18	方針：基幹改良 (R6~8、R21~23) 延命化目標：-
	第二工場	方針：修繕 延命化目標：R8	同左	同左	同左	方針：修繕 延命化目標：-
	リサイクルプラザ	方針：修繕 延命化目標：R23	方針：修繕 延命化目標：R18	方針：修繕 延命化目標：R23	方針：修繕 延命化目標：R18	方針：修繕 延命化目標：-
	最終処分場	方針：延命化対策なし				
新施設等整備方針	焼却施設 ストーカ方式 全連続燃焼方式	稼働開始：R24 施設規模：247t/日 処理対象物：燃やせるごみ	稼働開始：R19 施設規模：254t/日 処理対象物：燃やせるごみ	稼働開始：R24 施設規模：焼却施設 240t/日 メタンガス化 25t/日 処理対象物：燃やせるごみ	稼働開始：R19 施設規模：焼却施設 240t/日 メタンガス化 25t/日 処理対象物：燃やせるごみ	-
	リサイクル施設	稼働開始：R24 施設規模：44.37t/日 処理対象物：燃やせないごみ、粗大ごみ、缶・びん・ペットボトル、有害ごみ	稼働開始：R19 施設規模：46.38t/日 処理対象物：燃やせないごみ、粗大ごみ、缶・びん・ペットボトル、有害ごみ	稼働開始：R24 施設規模：44.37t/日 処理対象物：燃やせないごみ、粗大ごみ、缶・びん・ペットボトル、有害ごみ	稼働開始：R19 施設規模：46.38t/日 処理対象物：燃やせないごみ、粗大ごみ、缶・びん・ペットボトル、有害ごみ	-
	最終処分場 クローズド型	稼働開始：R15、R30 埋立容量：162,000、156,000m <sup>3</sup> 埋立対象物：焼却残渣、不燃残渣、直接搬入ごみ、道路清掃土砂	施設整備なし (現有施設活用) 埋立対象物：直接搬入ごみ、道路清掃土砂	稼働開始：R15、R30 埋立容量：162,000、156,000m <sup>3</sup> 埋立対象物：焼却残渣、不燃残渣、直接搬入ごみ、道路清掃土砂	施設整備なし (現有施設活用) 埋立対象物：直接搬入ごみ、道路清掃土砂	-
	民間委託	-	埋立対象物：焼却残渣、不燃残渣	資源物：紙・布類	資源物：紙・布類 埋立対象物：焼却残渣、不燃残渣	埋立対象物：焼却残渣、不燃残渣
評価項目	①ごみ処理の安定性	△ ケース2,4と比較すると施設の強靱化を図れる時期が遅い。	○ ケース1,3と比較すると早く施設の強靱化を図ることができる。	△ ケース2,4と比較すると施設の強靱化を図れる時期が遅い。	○ ケース1,3と比較すると早く施設の強靱化を図ることができる。	× 施設の強靱化は図れない。
	②経済性	◎ 総事業費はケース2より高価となるが、実質負担額は最も安価となる。処分場整備単独では民間委託 (ケース2,4) より高価となる。	◎ 総事業費はケース5に次いで安価となるが、実質負担額はケース1より高価となる。処分場整備単独でも新設 (ケース1,3) より安価となる。	△ 焼却単独 (ケース1,2) と比較すると、総事業費、実質負担額とも高価となる。処分場整備単独では民間委託 (ケース2,4) より高価となる。	△ 焼却単独 (ケース1,2) と比較すると、総事業費、実質負担額とも高価となる。処分場整備単独では新設 (ケース1,3) より安価となる。	○ 施設を整備しないため総事業費は安価となるが、実質負担額はケース1より高価となる。また、耐震補強等に係る費用が必要となる可能性が高い。
総合評価		○ 施設の強靱化が図られる時期はやや遅いものの、経済性では実質負担額が最も安価となる。	◎ 施設の強靱化が図られる時期は早いものの、経済性では実質負担額でケース1より高価となる。	△ 焼却単独のケース1,2と比較すると経済性が大きく劣る。	△	× 経済性としては安価だが、施設の強靱性に大きく劣るため、耐震補強等が必要となる可能性が高い。